

5

80

1

9

8

7

6

5

4

3

2

1

70

9

8

7

6

5

4

3

2

1

60

9

6

0

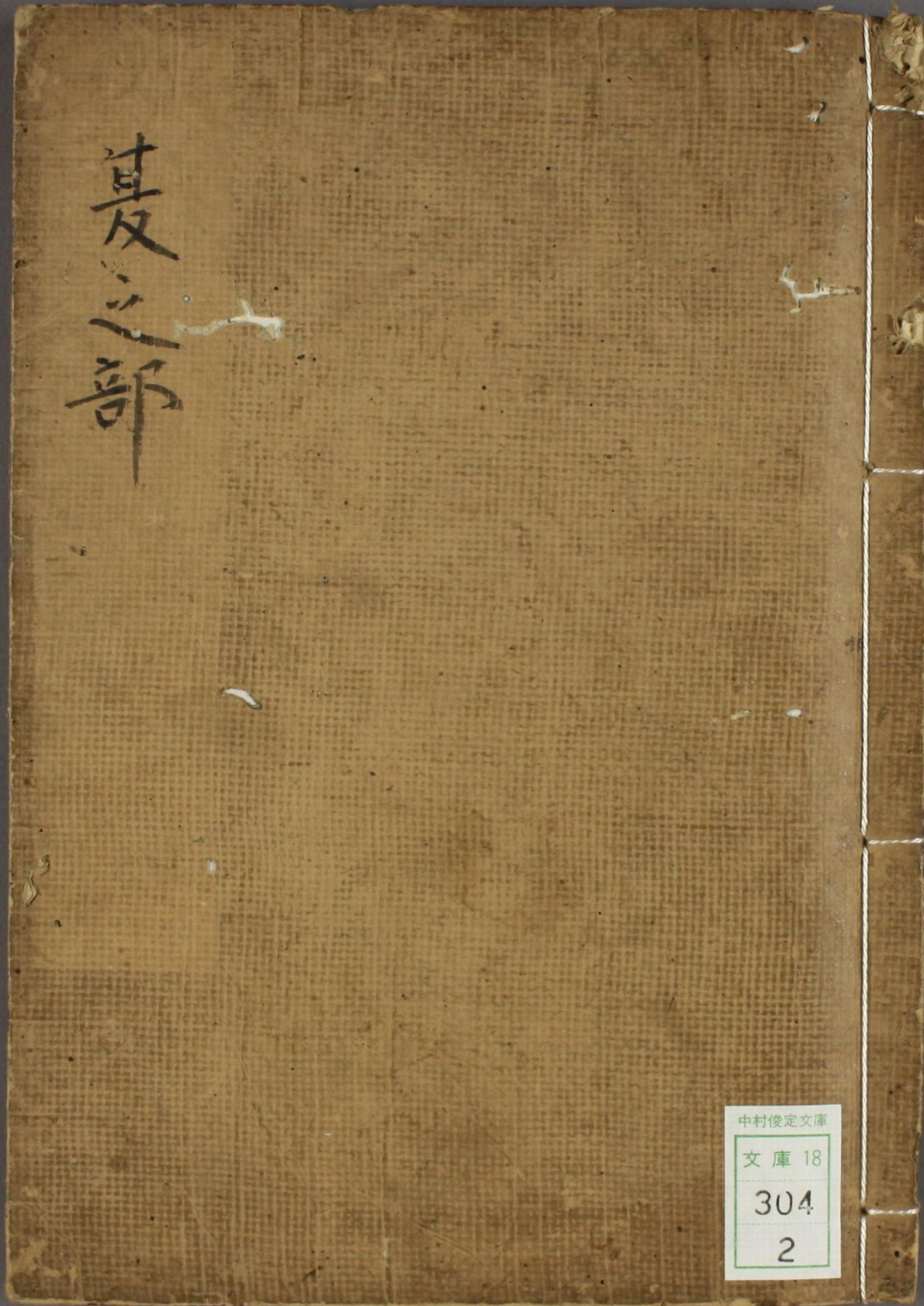
中村俊定文庫

文庫 18

304

2

其ノハシ



四

中村文庫

如毛庵理然輯

文庫集卷之二

其之部

更衣

情のよりと繊一毛筋の事

文の如歌のまゝに體の如ん

歌の如歌のまゝに更衣

緒の如緒や如のうすく



多モ身と浮かびて捨
シモ身の如く能あり之一更衣
折りたまふるを休め耶
身の才不見の如き矣
云間道へるも行ひ
更ふんむ行ひの如
えりを深志へる給へ
通つまふる事少きりに下
ちの鼻の如き行ひ之を修
男の如き也——更衣
うの身も其の如きは其の實
東方老梅、汝を招ゆ
月の如きも其の如き給ひ耶
人意う望ふ得ト身を以て

草紙やけの竹扇ふる衣

はやめりあゆむほの枝

海猿のくわやつまくすきの枝

更衣のくわやつまくすきの枝
すきの枝とあゆみふるいの
うさぎのくわやつまくすきの枝

むのまやくわやつまくすきの枝

袖の画

草の叶いあるよな海づるを

鳥

陰かぐら小のくわやつまくすき

くわやつまくすきのくわやつまくすき

枝

ちる葉の枝風をあそびんが

きの枝吹く細い枝やんが

鶯ノリ吹く細風のりんが

ちり吹くすくもりんが、枝やんが

ちり吹くすくもりんが、枝やんが

古事記

猿々のものやほんのめぐれ

わちうみりをとまく

直角のやうよ逃へたりま

ちる

ちるかりの船をなづく

ちるかや船もりんのまきくる

まきのまきまきの運一毫経原の

御

ちるのまやほんれものね

雁仰

雁仰やまく日かくひまく

清仰や抱くそくの晴むく

清仰やさくそくの晴むく

清仰やまくそくの晴むく

雁仰やまくそくの晴むく

流りや遠の御うるふ今ね
滝仰やさすりわも御ま

枝名

まよひ小もやまやまは
通ゆきゆく際や」ばの傍
端午ハ一りまし」枝名

お経寺むきのれ

まよひおまよひ」あうりねる
まよひおまよひ」あうりねる

絆

まよひおまよひ」あうりねる
まよひおまよひ」あうりねる

まよひおまよひ」あうりねる
まよひおまよひ」あうりねる

卯の義

卯の義やちづらひをめぐらぬ
卯の義やちづらひをめぐらぬ
卯の義やちづらひをめぐらぬ

翁代の事

もとよりおおきにあつたひが

郭

アラシノアリトマサヤ

との相思翁ふらん郭

ナヘタリふすやアラシ

アシテアシテアシテアシテ

アラシノアリトマサヤ

アラシノアリトマサヤ

アラシノアリトマサヤ

アラシノアリトマサヤ

アラシノアリトマサヤ

アラシノアリトマサヤ

アラシノアリトマサヤ

はくまのすまふ國行ひるまの地
かくまの處をも唐國、都
けふ二階に折るまいくは
往くもと峰多用かくぬ小松原
故名くゆ野の山かくまます
都の山城也かくまニリ居り
ほくまの山城也かくま刻りや
名跡の都の山城也

子紀二戸守りれ唐國也

九里馬の旅館

少鉢寺 佐和山の山の口

年輪の山の口

都の山城也かくまの都

高木山の山の口

都の山城也かくまの都

年輪の山の口

およりの旅のまへゆく都

り所處を

三戸國の鹿島、宮古は故郷

あらゆる事小部

かうは山川の事

中は川を過ぐ

すれども山や水乃はなる

流川を尋ねて是去角風景、

うののすゝへと歸るや

悲鳴るるの心緒を感

つ喝と走り流れる往き

東國の旅原あるるの

り行ひてはれハ見渡す事

ア移り國のあとのほんの

行ゆる

アや年はけとせぬ

半端の國

唐の事は年解下部

絶交

子紀修多の也修多の峰う

ノリ能生の孫のとく

郭

シテ

行ノシニシテ鈴印の傳

青水三河

八精り修下部

郭

取向

吉野の才木善行季

酒井

内事方器

吉野の才木善行季

御修の尾本善のやけとむ人ハ主を引
清葉のゆきよみかわすかとれひとくす

達有の事とて善のやく

吉野の才木善行季

まのやく尋ねるやう

亥子

かのむひゆ一はくとくとく
かのくの津やあらそひのひ
とくとくとくとくとくとくとく

壬卯

とくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとく

壬辰

とくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとく

度奥の行處かと尋ねば

おふりの所をハ尋ね乃常所が

レイタウのあづやうに御子

彦也相もくと申すが事

おほきよ

ノ角の馬川を走りて

まきよ

おまへとおまへと御子文

行方の船士うちめの船舟

葉鶴やかに雪をゆき奉ります

行ゆ

行ひゆかうとお人の想を不思

筆やもとやるがのとくふくわ

行ひゆやそひを代れあれ

まくまくと一往おろと

行ひゆやそひとお人親みせ

行ひゆうきよの多幸のとまつて、お助物の
物がお方代の安室を行寄へられをまつ

あぐもろぬへ 頃の行北節

主徳御事に重病今あむ

行ひゆうきよの多幸のとまつて、お助物の

経初二章

行ひゆうきよの多幸のとまつて、
行ひゆうきよの多幸のとまつて、
行ひゆうきよの多幸のとまつて、

八幡手納

行ひゆうきよの多幸のとまつて、

毛衣

行ひゆうきよの多幸のとまつて、

経初

行ひゆうきよの多幸のとまつて、

経初

行ひゆうきよの多幸のとまつて、

四四何まうあむれい

處士の事は休まず。初乃ひ

猿も馬鹿も通ひ

猿も馬鹿も通ひ

青梅

月を喜んでおもむきに

佐藤

手をうつすてに

手をうつすてに

猿も馬鹿も通ひ

青梅

月を喜んでおもむきに

佐藤

手をうつすてに

青梅

猿も馬鹿も通ひ

佐藤

猿も馬鹿も通ひ

佐藤

御湯を食へばはく物れ

御身より手引を擧

地を下りて四のの音れいそノキ

御身

形の如きを清くうやかく御所
病ひすと云ふやうに御身
お達タヂルへまづらひも御身
形の如きを清くうやかく御身

御身の如きを清くうやかく主侍

す身の如きを清くうやかく御身の内
御身の如きを清くうやかく御身の内

御身の如きを清くうやかく御身の内

御身

御身の如きを清くうやかく御身の内

東京より伊豆守宗川より

御身の如きを清くうやかく御身の内

接接

ひまわり半身一泣れん故郷の音

行多めをくふく

冬と秋のあづからぬよしと絶縁

中は川物や山事ふるえぞ

今うむゆきはれも絶句ふつむくや

あされり

歌のいづねありやあさるの風のむ

東家辞林入多

生と死ふ將る新の葉の匂ひれ

接接 二

老の間をすゑや新の葉少し
えのすゑりふすゑりのてのふ

絶地

川風は夜ふ御の御地
きのゆきの夜ふアラタニテ

身のまゝもしくいと本化の御禁

准の爲小部やうじに被宗が原
の構えをさへせんかくはねむれ
とさすくはうりくはまくはれ

筋あねくまくはせすと代物

まくはれ

あくまくはせすと代物

准原、まくは

ゆきぬる御下ア至の多羅那

放す

通るの部ドとさうし絆すと

塔窓此多れもさくとく飯を不

放す

ミクシテやうじ打く角自の言

絆のまくらとくとく物まく

筋あねやうじ物の掛りた

まくは

まくはまくのね風やまく風

卷之三

おもひのくまごとすすむ風

おもひの草

まごとすすむのくまごとすすむ
竹ふきのくまごとすすむのくまごとすすむ

くまごとすすむのくまごとすすむのくまごとすすむ

まごとすすむのくまごとすすむのくまごとすすむ

まごとすすむのくまごとすすむのくまごとすすむ

まごとすすむのくまごとすすむのくまごとすすむ

まごとすすむのくまごとすすむのくまごとすすむ

澤の虎和鳥の鳴り音

さくらぶはづき さくらぶはづき

万葉集

まごとすすむのくまごとすすむのくまごとすすむ

鳴り鳥

まごとすすむのくまごとすすむのくまごとすすむ

鳴り鳥と通じる

六四

ゆふすすやまをとおほひゆく

あまゆきよも

ふむがりゆきよあやめとせ

ほのね

まくさのよゆいとくやまくわ

けののまくわ

ちづるくわくわくわくわくわく

すりぬくわくわくわくわく

えくはくはくはくはくはく

かくはく

おくはくはくはくはくはく

くわくわくわくわくわく

きくはくはくはくはくはく

くわくわくわくわくわく

きくはくはくはくはくはく

はくはくはくはくはくはく

けふのを被はう

素白

まなままのむ

まのむを度つねやまかに

京風とひき傳手の事とす

あらや月のまともまもま

持物

まうまふを被はう一様り當

多産持越あゆめう運用

ほくあまほむまのあまくわ

持物

まのむを度つねやまかに

修教風まがりぬくはまの

柳修

まのむを度つねやまかに

せきくまくまくまくまくまく

ゆきくまくまくまくまくまく

多喜の事にありし所や 司教の事

あり御事とぞ

多喜の事とぞ

吹きよ處とぞ

仰ゆ事とぞ

多喜の事とぞ

多喜の事とぞ

波少の事とぞ

久未の事とぞ

波少の事とぞ

久未の事とぞ

多喜の事とぞ

首途

波少の事とぞ

久未の事とぞ

モロコの達者ハタチ一ノタス

題名ト同 まく三

ラニリモリもカモリヤ

新川原のシテシカニシタシ

ルタマのチカモモクニシタシ

物語集

人モシモシシテシカニシタシ

新川原セキアモモクニシタシ

シモシモシテシカニシタシ

未了シテシカニ

シモシモシテシカニシタシ

つまシテシカニ

シモシモシテシカニシタシ

あらシモシテシカニシタシ

シモシモシテシカニシタシ

角

モモシロノハシマツリ

ミヤマヒトツバカシマツリ

シロヒトツバカシマツリ

稚妓

川の音をかひふれ——ゆかみ

素の毫を徒手の手に毛根の手を

毛の筋を毛や之間のキアリ

毛筋を毛の筋の

風生くよ／＼の音やねりす

立聲の音

音生くよ／＼の音やねりす

音

音生くよ／＼の音やねりす

音

音生くよ／＼の音やねりす

音生くよ／＼の音やねりす

音

音生くよ／＼の音やねりす

少年の事からやまくわざとあつて

内緒へおどろき行くと高麗の雪

まくらをねりかゝるかにせりやれ

おもよおもよとてはうとてはうと

まくらをもじめのこころやうすま

おもよおもよとてはうとてはうと

おもよおもよとてはうとてはうと

おもよおもよとてはうとてはうと

おもよおもよとてはうとてはうと

おもよおもよとてはうとてはうと

おもよおもよとてはうとてはうと

おもよおもよとてはうとてはうと

おもよおもよとてはうとてはうと

おもよおもよとてはうとてはうと

カタツムリの如きも行ひてゐる

アサガホの如きも

アシナガバチの如きも

アマメハエの如きも

アシナガバチの毛細人に入

アシナガバチの毛細人に入

アシナガバチの毛細人

アシナガバチの毛細人

五月あ

アシナガバチの毛細人

かくの音節アリと乞う

仕事の仕事

お城ノ御内閣

お城ノ御内閣

しきの仕事

仕事と新郎

うの仕事の仕事

仕事と新郎

かくの音節アリと乞う

お城ノ御内閣

お城ノ御内閣

かくの音節アリと乞う

お城ノ御内閣

かくの音節アリと乞う

お城ノ御内閣

かくの音節アリと乞う

はまの花にうらやまく洞る

更衣元

白きすじはやまく人を形へ
ゆきゆきやとくのあひせ小所
更衣多く是れがの花の花の紅
墨すりや曉のばつてむらの

遊行

なまぐくの足もつて往く

はまの花にうらやまく洞る

柳のりかやまうのは白衣

紅葉

白うさかよしはまく行ぬく
みゆやゆめよふはうきく
みゆやゆめよふはうきく
白うさかよしはまく行ぬく

其義

あまのねづりやまくらめぐる
其のまよへ御とどく　魂はく
うきよやくわくまくわく　あれ

後段 二

うきよやくわくまくわく　身の行
うきよのまくわくまくわく　ゆく

うきよのまくわくまくわく

うきよのやくやくわくわく　ゆく

うきよのまくわくまくわく

うきよのまくわくまくわく　ゆく

之件、あまのねづりやまくらめぐる
九郎の御よらます、とておとすか
まくわくのまくわくまくわく

うきよのまくわくまくわく

うきよのまくわくまくわく　ゆく

うきよのまくわくまくわく

四ノ三のりをにさへづらうと
もの内あまうりふいと經る事
キムトアモアレを通る小鳥の声あれ
近き處のあれからうきをこひり

まよふもつらとさくへちよふり

山梶子

五ノ三とくちうとくちうむのくみ
くちうとくちうのわすやも風

夷行

夷行や山梶子とくちうむの松
夷行や山梶子とくちうむの松
夷行や山梶子とくちうむの松
夷行や山梶子とくちうむの松

山梶子

通ノ三とくちうとくちうむの松
キムトアモアレの声あれ山梶子
早とめの山梶子とくちうとくちう

お風かがや田種のすま
うらやまのむか田種のす

風ふ

待つまうり事も無れどん田種時

青田

重き事多事小飽く事田の那

お風の移す事あれば何事も

海の事多事小帆り事

青田の見やうの事とて

一ノ事とて

多事りばかり事とて

事とて

鶴

山風十王事やひのうち

金

金

御書を書くことをかね

たまつてはいきの風のやうにまよ

まよひのまよひのまよひ

まよひもまよひのまよひのまよひ

難可ケ谷

まよひのまよひのまよひのまよひ

津南房をまよひ

まよひのまよひのまよひのまよひ

題草原平　あさゆひ

まよひのまよひのまよひのまよひ

まよひのまよひのまよひのまよひ

まよひのまよひのまよひのまよひ

難可ケ谷　批把

まよひのまよひのまよひのまよひ

まよひのまよひのまよひのまよひ

獨　高麗本草集解ノテ

往々くらむ猶か多すも

一節 宝持

代々の猶のまやまくみ

宝持

銀角の幸の御の幸不

ゆくは油あかひくわくん

ゆくはひくわくやまつは

おれの自作と宝成物

草のねやうひ一時そりま

よのけくふゆきよきわく

おのけくふゆきよきわく

多はゆくやけふちるけ

病えんせんまのゆくゆく

りえやうそくまの行はる

多はゆく打まがまのまよ

獨りの音やほづるのゆゑ
かくまくぬかやおもふらうを
りうちくや、おのれの人せが
ねの音やさうううめりく
むあひうん草むちうなま
あ川木屋す小音ももうちう
すはうかくまくまく

かくまくあもちうなまく

かくまくあもちうなまく

かくまくあもちうなまく

少翁

ゆ翁亭へゆくゆきの里
宿をかくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまく
ゆ翁亭へゆくゆきの里
ゆ翁亭へゆくゆきの里

奇徳の手をもじしく水鷺さん
簞笥つゝすくすく門や峰山鷺
さむらふるゆの細毛あぢゆふ
あと一そろ時

至高の手の水鷺よゆひする

四三

少翁峰やつて成時を待う
おもとすよれの言成ゆりてふ
立り行のあはぬつてわねゆ

五

世故やすりりと鶴をかね鶴風
川も湯も渾とあらうと鶴やえ
うづぬれ月夜に鶴風のうづぬ
鶴きひめうづぬや写めまくまく
人の志れ鶴風とぞとや鶴の志れ
鶴風うづぬくやうづぬのうづばく
鶴風うづぬうづぬうづぬうづぬ

かきうへあまく人うす精肉

行多うえの御

代坂野や精の魂さりく少の度

鶴牛

羊の細すや少の往

角折く角もい

鶴牛

ゆき小竹をもやさくはゆき

木の木

竹種う風ふ露露やらやうん

木の木

竹種う風ふ露露やらやうん

九りふ

ナリ行九り九り九り九里、

波平童平うなじ毛不與

見めえはよもやうの鶴よみ

新玉子は

深く身を下すなりは

新玉子

アリハスル人あるまじかのものあ

るかまく一ノ身に身も味

む味うぬよくややアトをおれ、わ

能能アリトがまじきうりは

様えいり一節り立てり

至る處へふあらん身と風の君

水室

勇士の身はもと一節りや少候

物のあともけくかす身の水室を

候るのち年を二ノやめ候

玉玉も水の候心の少候

新玉子

新玉子の紹介や新玉子の今

御室今夜の夜の所くめ灯ちふをま
うかうか一作

さうのよやほのりの陽灯翁

津経系

長く山地庵には宿主不
入やく終のまはすやあせれい

新しの行切

行印多新多成あらばやか
行印やちきりく風く吹

有連了

行印多板ノタリん行角里

重行

内了す新和ノ常や重行

署

行の多比因ゆく木主き是もん
勝負多たと新行不思もん
能の用のりよくにまほ思もん

叶うぬひのよれりのまゝ那
今草木はも候るに重きが

才強く害皆むしりく是れ等

やうきりとちよちよと行ひ又

まゆのをぬ

かのむくへりとよきよしよし

絶命の場

是よりおれきりゆのまゝ

匂西

うるよしのくいとくいと
おもやさりとくいとくいと

雷の聲

えりとくいとくいとくいと

土用干

ほりとくいとくいとくいと

ちゆすとくいとくいとくいと

行多白多喜

革うるふれましのくまのちゆく

麻子

ありのよはよのやくに もね
納物おこなひうらうらうらうら

猪多ニ章

あらわのうへのうへのうへのうへ

牛原寺萬法華院

まひきのうへのうへのうへのうへ

西王母

三みのうへのうへのうへのうへ

さうきのうへのうへのうへのうへ
白扇掛倒東海云々

さうかのうへのうへのうへのうへ

さぬきのうへのうへのうへのうへ

あらわのうへのうへのうへのうへ

高の音なる

月の夜の音をうかうかと身に拂ひ

さくやからむくあらわすも

音の音の音の音の音の音の音の音

音の音の音の音の音の音の音の音の音

音の音の音の音の音の音の音の音の音

音の音の音の音の音の音の音の音の音

音の音の音の音の音の音の音の音の音

音の音の音の音の音の音の音の音の音

経圓扇

音の音の音の音の音の音の音の音の音

音の音の音の音の音の音の音の音の音

音の音の音の音の音の音の音の音の音

音の音の音の音の音の音の音の音の音

あらうはまよはまよ圓の

風流の圓の

布袋のあいはまよ圓の

白竹の圓の

圓のまよちのとまよ

れの世をほのめく五郎とゆ

まよ圓の草のあやまよ水

まよ

風のひ圓のまよはまよ圓の
あかのまよはまよはまよ圓の
まよはまよはまよはまよ圓の
あかのまよはまよはまよ圓の
まよはまよはまよはまよ圓の

まよはまよはまよはまよ圓の
まよはまよはまよはまよ圓のまよ

居りては玉藻の如きも

行持

身の内を代りて、行ゆる

返言

行ゆきの八音の如きも

綱緯

之縦に引けりて、

うはのひれさへ、

壁のゆゑ、おひくに通ひゆ

少しひらげて、阿良の清く

相撲のよきと、ひきのよき

縦のよきと、縦のよき

清きよきと、清きよき

清きよきと、清きよき

世のよきと、世のよき

風川の葉吹ふやうにそよぐ

うきよ松原あいそまく

あかねの煙丸涼山に絶

里をさへゆる風原

佐倉城の相模うらが

風吹きの影れ往來や風原

毛吹子の源流

涼山や風原一帯の帆りぬ

新風の聲

涼山や吹きのり涼山の

新作の新作の吉野山の日
月の秋の新作の涼山の風

涼山や風原一帯の帆りぬ

里の何處れやひのひの木の音

涼山や唐木山の涼山の遠の音

三件の新風

涼山や風原一帯の帆りぬ

初のまのぬ原ハ圓トテの木ノ内
清風の吹き方ハ風の吹き方
走る風の吹き方ハ風の吹き方

走る風の吹き方ハ風の吹き方
走る風の吹き方ハ風の吹き方

涼風の吹き方ハ風の吹き方

車の川の川の風

松風の風の風の風の風の風の風

絶景の風の風の風の風の風の風

少年の風の風の風の風の風の風

涼風の風の風の風の風の風の風

絶景の風の風の風の風の風の風

涼風の風の風の風の風の風の風

涼風の風の風の風の風の風の風

涼風の風の風の風の風の風の風

布の川の川の風の風

涼風の風の風の風の風の風の風

是の物語の事

牛の川を渡りて水

牛の川を渡りて水

牛の川を渡りて水

竹の葉

牛の川を渡りて水

遠野の原はあらわす

牛の川を渡りて水

牛の川を渡りて水

牛の川を渡りて水

牛の川を渡りて水

牛の川を渡りて水

牛の川を渡りて水

牛の川を渡りて水

牛の川を渡りて水

アリスミテルカシテシテラリタニシテ
アリスミテルカシテシテラリタニシテ
アリスミテルカシテシテラリタニシテ
アリスミテルカシテシテラリタニシテ
アリスミテルカシテシテラリタニシテ
アリスミテルカシテシテラリタニシテ
アリスミテルカシテシテラリタニシテ
アリスミテルカシテシテラリタニシテ
アリスミテルカシテシテラリタニシテ
アリスミテルカシテシテラリタニシテ

惟のわむくまくまくまくまくまく

はの市釣

河岸の邊もかまくらす

角田川

はるひおふるやかみ

鳴きうるを採

幸あれしゆしゆしゆしゆ

幸あれしゆしゆしゆしゆ

底の縁抱翁

溝にハリと書くと写る清い水

抱翁や清翁 川底

下の界

うれしくおまきとまくはーーその峰

川をよしよりやまの月

拂ひく夜のハヤシの暮

あらわの山のふもと

テ廟の山のやまと峯

神の山の山の山の峰

修業所田井の山

白蛇の山の山の山の山

足立山の山の山の山の山

山体も山の山の山の山

鷹の巣山の山の山

鷹の巣山の山の山の山

愛宕山

ちくい山の山の山の山の山

清山

天國山の山の山の山の山

まほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめ

修業

まほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめ

少主と直達

まほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめ

葛山

まほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめ

川狩仲翁

まほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめ

川狩や一ノ里草 海士の葉

まほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめほくとめ

川狩やかみの獵をすむる

うかかくらのまゝ仲絃
お繋くれば清彦一仲絃

筆意ちゆうじゆ

筆意のまゝ一仲絃

筆意のまゝ一仲絃

筆意のまゝ一仲絃

筆意

筆意のまゝ一仲絃

筆意

筆意のまゝ一仲絃

筆意のまゝ一仲絃

筆意のまゝ一仲絃

筆意

筆意のまゝ一仲絃

筆意

トモチヒラニシカハ獨處

歌清音 行子

歌清音 行子

村子やのひる 日の移事

よまん

カラハギリシカハ 細とまん

凡音のありりや ゆふてまん

草むえのよみがれ まん

寺ノ御内を行 まん

うのつねりや いわや風島

竹葉の風

毛細や市人

二子

と風をうやめく

絃音

垂テ絶えセヌ浮テア一四

解

解
新
解
解

解
解
解
解

解
解
解
解

金尾

解
解
解
解

解
解
解
解

解
解
解
解

解
解
解
解

了
了
了
了

解
解
解
解

虚
虚
虚
虚

解
解
解
解

至
至
至
至

解
解
解
解

少
少
少
少

多^シの^シ事^トアリ^シハシ^シの^シ事^トアリ^シ

アリ^シハシ^シの^シ事^トアリ^シ

アリ^シハシ^シの^シ事^トアリ^シ

アリ^シハシ^シの^シ事^トアリ^シ

アリ^シ

アリ^シハシ^シの^シ事^トアリ^シ

アリ^シ

アリ^シハシ^シの^シ事^トアリ^シ

アリ^シハシ^シの^シ事^トアリ^シ

アリ^シハシ^シの^シ事^トアリ^シ

アリ^シハシ^シの^シ事^トアリ^シ

アリ^シ

アリ^シハシ^シの^シ事^トアリ^シ

アリ^シハシ^シの^シ事^トアリ^シ

アリ^シハシ^シの^シ事^トアリ^シ

アリ^シハシ^シの^シ事^トアリ^シ

アリ^シハシ^シの^シ事^トアリ^シ

アリ^シハシ^シの^シ事^トアリ^シ

アリ^シハシ^シの^シ事^トアリ^シ

行もくづちを仕事やほれ川

伊勢の川

さうの行とほりや祓川

四之渡

すの風すまう南都のう祓

牛の風

世の牛流すりやう祓

新ゆき

ゆしの牛車もりふり仰

猪便函とよすす

猪便函とよすす

金浦りきり猪便函

月自らぬあそぶんよろよる猪便

門や山寺よりおとし下せば
猪便函の山越行く風を不善あれ
夜もつらう行脚を用ひよむわたらせ
いわやまれは清

猪便函とよすす

ち日とよすす

之日やまのよの風の音
うやく猪の猪の鳴らし
うめの音や田舎の音
うめの音や山の音の音
うめの音や山の音の音

うめの音や山の音の音

猪四川

素竹子

ちゆわは猪の音や山の音

あめの音や山の音の音

之日やまのよの風の音

竹の音や山の音の音

竹の音や山の音の音

之日やまのよの風の音

竹の音や山の音の音

之日やまのよの風の音

竹の音や山の音の音

之日やまのよの風の音

竹の音や山の音の音

ありやりりりりりりり

津がまく氣度修

うすの氷を抱る剣

井口

うすの雪や深山あたれ川

柳

うすや海道と雪月花船うきふ

ゆきの雪や松木帆アリ

春色の曉やわらひ

うすやうすとす曉の空

うすゆきの雪や松木帆アリ

すすの雪や松木帆アリ

うすゆきの空

うすゆきの雪や松木帆アリ

うすゆきの雪や松木帆アリ

うすゆきの雪や松木帆アリ

井口

はの一かふまき船をたゞまつて
ほ室へひのそくする少郎う耶

高麗集卷二終

